

彩の歳時記

平成二十九年 七月

一年に七夕の夜のみ逢ふ人の恋も過ぎねば夜は更けゆくも

作者未詳(柿本人麻呂歌集) 『万葉集』

「一年に七日(七夕)の夜だけ逢う人の、恋の時もまだまだなのに、夜が更けていきます」

七夕の行事を初めて行ったのは渡来人で、織物の上達を願う「乞巧奠(きっこうでん)」という形でした。宮中行事としては、**持統天皇**が六九一年**七月七日**に宮中で公卿を招いて宴を催し衣を賜ったと表記が「日本書紀」に初めて出てきます。約三千年前の中国の『詩経』に**牽牛・織女**の最初の表記があり、日本では万葉集に約百三十首所収、古代から続く日本の伝統行事を大切にしたいものです。

七月の暦

一日 海開き 山開き 山開きは、富士山が有名で多くの登山者で賑わう。

二日 半夏生「はんげしょう」雑節 梅雨の末期、天地に毒気が満ち、半夏(ハンゲ)という毒草(薬草)が生ずると考えられた。(葉の部分が半分化粧したような(烏柄杓))。蛸を食べる習慣は、関西の風習。田植をした稲が土の中で蛸の足のように根付くようにと。



六日〜八日 朝顔市 大田南畝の地口「おそれ入谷の鬼子母神」で有名な「入谷鬼子母神真源寺」

が有名。歌舞伎役者、市川団十郎が好んだと言われる茶色の「團十郎」という朝顔も人気。

七日 小暑【二十四節気】七夕からの十五日間。暦便覧には「大暑来たれる前なればなり」

梅雨明けの頃ですが、梅雨の終わりは天気が荒れることが多いので注意を。

七夕

元は十五日に戻って来る祖先の衣を棚で機織した「棚機(たなばた)」と仏教行事「盂蘭盆(うらぼんえ)」の準備の日が結びつき、庶民に広がった。

東京タワーでは、毎年恒例の夏のイベント「天の川が流れる夏の夜空」のイメージ・ライトアップ、星空に赤い織女星と白い彦星が輝き、流れ星も現れる。



ゆかたの日

日本ゆかた連合会が1981年に制定。「乞巧奠(きっこうでん)」に因む。羅(うすもの)をゆるやかに着て崩れざる 松本たかし【1906〜1956】



九日

鵲外忌

明治の文豪・森鴎外【1862〜1922】の忌日。石見(いわみ)の国(島根県津和野)の人。

軍医總監。代表作に『舞姫』『鴈』『山椒大夫』など。文京区千駄木の鴎外の旧居



「観潮楼」跡地の鵲外記念館。講演会などイベントが開催される。カフェも併設。

十日

四万六千日

浅草観音ほおずき市 この日、お参りすると、四万六千日分の功德があると。



十三日

お盆 迎え火

十五日 盂蘭盆会 十六日 送り火



十七日 海の日 二十日の海の日が2003年に祝日化し第三月曜日に。

あじさい忌

「嵐を呼ぶ男」などで有名な俳優。石原裕次郎【1934〜1987】の忌日。

没後三十年。生前、好んでいた紫陽花に因む。平成三年開館の小樽記念館が八月閉館予定。

二十三日

大暑【二十四節気】

快晴が続く、気温が上がり続けるころ。

二十五日

土用の丑の日 鰻を食べるのは、平賀源内が鰻屋のために書いたコピエからと言われる。



七月の歌

たなばたさま

昭和十六年 詞 権藤はなよ 曲 下総皖一

笹飾りは七夕行事とは関係無く、元は田の虫避けなどの農事儀式。現在の笹飾りは江戸末期から。軒端のある家も少なくなったがベランダや大型施設などで願い事を書いた「短冊」がたなびく光景も見られる。

軒端に揺れる
お星さまきらきら金銀砂子
五色の短冊私書いた
お星さまきらきら
空から見てる